

農業委員会だより



2022.4 号外

第16回 食育見聞録 作文・図画 コンクール

農業委員会では、小学生が自らの食と農について考える習慣を大切に、生涯を通して健全な食生活を実現するため、広報・食農委員会を設置して食農教育の推進に努めています。

第16回目を迎えた「食育見聞録 作文・図画コンクール」には、市内小学校5年生の子どもたちから、農業体験を感じたこと、農産物を通じた家族とのコミュニケーションで思ったことを表現した601作品（作文151作品、図画450作品）の応募がありました。

横手市教育委員会の協力のもと審査会が行われ、最優秀作品が各1作品、優秀作品が各5作品選出されました。

なお、図画作品を中心に3月26日～4月3日までYぱらざー1階オープンスペースにて展示会を行います。ぜひ、お越しください。

作文の部

最優秀作品



大雄小学校

鈴木 ひかり さん

「農家のお父さん」

わたしのお父さんは農家で、お米を育てています。でも、会社員でもあります。ずっと大変そうだなと思っていましたが、学校で田植え、稲刈り、お米の販売を通して、改めてお米を育てる大変さが分かりました。田植えの日は、雨が降っていて、少し肌寒かったです。わたしたちは、雨ガッパを着て作業しました。田植えは、思ったよりも過酷でした。雨はふって寒いし、ドロに足を取られるし、一歩ふみ出すごとに石をふんでしまつて痛いし。そして、やっと稲を植え終わつたころにはもうへとへとでした。でも、わたしたちは準備されたところからやっていただけ、農家さんたちは一から耕したり、水を引いたりして、やっと田植えをするから、すごいなと思いました。稲刈りの日は、いい天気でした。かまど稲の根元のところを切るという作業でした。これは案外簡単で小さく切れて気持ちよかったです。かまは、危なそうだったので、けがをしないように気をつけて使いました。幸いクラスにけがをした人はいませんでした。

お米の販売では、JA秋田ふるさとのお店

で売らせてもらえました。大きな声で宣伝したり、チラシを配ったりして、一生けんめい働きました。友達の家族や地域の人たちが来てくれました。働いたかいがあつて、お米は全部売れました。完売したときは、とてもうれしかったです。お米がわたしたちのところに届くには、たくさんの方の協力のおかげで成り立っていることが分かりました。

お父さんは、四月や五月ごろ、わたしが朝起きるときにはふとんの中に姿はありません。外で田んぼの仕事をしています。仕事から帰つてくると、田んぼに行つてしまします。大変そうだから手伝いたいです。

この前、新米を食べました。お母さんの手作りのからあげと、わかめのみそ汁はよく合いました。お米は白くてとてもおいしかったです。食べてみると、とてもおいしかったです。

お米を育てるお父さん、そんなけいします。

受賞者一覧

作文の部

◆最優秀賞◆

大 雄小学校 5年 鈴木ひかりさん

◆優秀賞◆

横手南小学校 5年 小坂祥太郎さん

横手南小学校 5年 小西 来夏さん

横手北小学校 5年 佐藤 廉さん

吉 田小学校 5年 佐々木真衣さん

吉 田小学校 5年 佐藤 広琉さん

図画の部

◆最優秀賞◆

雄物川小学校 5年 藤田 陽愛さん

◆優秀賞◆

横手南小学校 5年 柴田 太一さん

横手南小学校 5年 村田 聖夏さん

朝 倉小学校 5年 佐藤 蒼維さん

横手北小学校 5年 松井誠志郎さん

大 雄小学校 5年 斉藤 千夏さん



「おいしく育つようにと願いながら」

図画の部

最優秀作品



雄物川小学校

藤田 陽愛 さん